

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
理科の見方・考え方を働かせて、見通しをもって観察、実験を行うを通して、自然の事物・現象の性質や規則性について理解するとともに、観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録すること。	既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、実験、観察を通して得られた結果を予想や仮説と比べながら考察し、問題解決をすること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や実験の内容から、自然の事物・現象について、共通点や差異点を比較するなどして規則性を見付けることが苦手である。ア 観察や実験結果から、新たな課題を見付け出すことが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分ごととして学習内容をとらえられるように、導入時に生活経験やこれまで学習した内容との関連等を振り返る指導を行う。ア 実験結果を基に、考察を行わせ、交流を通して、学習内容の理解及び課題の発見をさせる指導を行う。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 導入 単元末 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験と実験の内容を関連付けて考えさせることで、規則性について理解を深めさせることができた。 実験結果を基に考察させることで、学習内容の理解をさせることができた。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 観察の際の視点や表現方法が身に付いていない。ア 仮説、実験方法、実験、結果からの考察、結論に向かう思考の筋道が身に付いていない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味をもちやすい自然現象との出会いを単元の初めに設定する。ア 問題から予測される自分の考えをノートに書かせる。また、結果は事実を書き、考察は考え、想像したことを簡単な根拠とともに書くことを指導する。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 導入 毎時 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の生活場面から内容を想起させることによって、実験への意欲を高めることができた。 学習の流れを明確化することにより、児童が自ら取り組むことができるようになった。また、根拠を書く習慣を身に付けることで、論理的に考える習慣が身に付きつつある。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な見方・考え方を働かせ、見通しをもって実験を進めることが苦手である。ア 実験結果から考察し、自分の言葉でまとめたり、学習内容を実生活と関連させたりすることが苦手である。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 予想を立て、実験方法を考える際に、何を調べるための実験であるか、板書等で明確にする。ア 根拠を明確にして予想を立てさせ、予想との比較から分かることを書くようにしていく。考察を共有し、どのように書くとよいかを全体に周知していく。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> 必要となる見方・考え方を単元を通して提示することで、実験を進める際の手がかりとすることができた。 予想をする段階で、根拠を明らかにするよう指導してきたことで、考察において予想との比較をしながら考えられる児童が増えた。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かして予想を立てたり、関連付けて思考したりすることが難しい。ア 実験結果を基に考察し、結論を導きだすことが難 	<ul style="list-style-type: none"> 予想を立てる際に、既習事項や生活経験を基にした理由を書かせる。何を書くのか、何を考えるのか明確にする。ア 体験活動や、視点を明確にした話し合い活動を授 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> 知識の個人差が大きく、活動の視点を与える以外にも手立てが必要である。

	しい。イ	業に組み込み、自分の考えをもてるようにする。イ	・体験活動を多く取り入れたことで、自分の考えをもてる児童が増えた。
--	------	-------------------------	-----------------------------------

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>3年 実験や観察の結果をロイロノートに残して、考察について提出箱で共有する。【重点:個別】</p> <p>4年 予想を立てる際に、手掛かりとなる情報をロイロノートで配布し、予想を提出箱で共有する。【重点:個別】</p> <p>5年 実験の様子や観察結果を写真や動画で保存し、考察の場面で繰り返し結果を確認しながら話し合う活動を設定する。【重点:個別・協働】</p> <p>6年 「月の学習」や「てこのはたらき」などの学習において、個人で観察したことを基にして、話し合い活動を行わせる。【重点:個別・協働】</p>	<p>3・4年 導入の中で生活経験を思い出させたり、学習が終わった後に日常生活に立ち返らせて考えさせたりする。</p> <p>5・6年 予想や考察を行う際に、日常の事象や既習事項と関連付けて考えることで、問題を解決しようとする態度を育てる。</p>